

## 第22回日本耳鼻咽喉科感染症研究会シンポジウム

# 耳鼻咽喉科領域感染症における検出菌の推移

— 司会のことば —

松 永 喬 (奈良県立医科大学耳鼻咽喉科)

感染症とは生体に外来性の細菌，ウイルス，真菌，原虫などが寄生して病原性を発揮した場合をいうが，ここでは耳鼻咽喉科領域感染症のうち細菌感染症を取り上げたい。

疾病というものは時代とともに変貌している。細菌感染症も同様で時代とともに細菌側因子，宿主側因子，環境因子そして検査側因子によって変遷してきている。したがってその時代の検出菌の動態を知ることは細菌感染症の日常臨床において重要である。とくに薬剤耐性菌や治療に抵抗し重篤な感染症に移行する菌種が出現した時にはその対策に難渋することがある。

このシンポジウムでは耳鼻咽喉頭および口腔領域感染症の検出菌の年次的推移をまず総

括していただき，ついで耳領域，鼻・副鼻腔領域，口腔・咽喉頭領域感染症の最近とくに問題となる菌種をあげていただき，それぞれについて予防法，局所療法，全身療法などの対策や今後の課題を述べていただく。とくに最近問題になっている MRSA 対策を整理していただく。

さらに感染の成立機序について細菌の粘膜への定着，侵入，増殖の面から最近の基礎的知見を述べていただき，同時に耳鼻咽喉科に多い気道の常在菌感染症の意義を腸管感染症と対比しながら述べていただき，あわせて耳鼻咽喉科領域細菌感染症の日常臨床に裨益する evidence を提示したいと思う。